

着色期のカンキツ果実を加害するアザミウマ類の防除対策

着色期のカンキツ果実を加害するアザミウマ類の主要種はハナアザミウマである。着色開始後に飛来を確認したら効果の高い殺虫剤を散布することで、防除が可能である。

成果の内容

1 現地発生実態の把握

- (1) 秋期の着色果実において吸汁被害（図1）を出すアザミウマ類の主要種はハナアザミウマであり（図2）、発生は10～12月の長期にわたり県内のカンキツ産地全域で認められる（表1）。
- (2) 被害は果実と果実が接した部分（果間）に多く認められ（図3、4）、樹内では樹冠下部より上部の果実において多い（表3）。

2 防除

- (1) 白色シートマルチを敷設すると、樹冠下部の虫数が少なくなる（表3）。
- (2) カンキツのアザミウマ類またはカメムシ類に登録がある薬剤を用いた感受性検定では、有機リン系、合成ピレスロイド系、スピノシン系の剤において即効的で高い効果が認められる。ネオニコチノイド系の剤はやや遅効的だが、同様に効果は高い（表4）。
- (2) 薬剤散布果実へハナアザミウマを接種処理した場合、テルスター剤は、処理7日後（雨あり、データ略）や9日後（雨除け、図5）でも残効がある。一方、アドマイヤーフロアブル、ダントツ水溶剤、オリオン水和剤40、ハチハチフロアブルについては散布直後の効果は認められるが、降雨後の効果は大きく低下する（データ略）。
- (3) 着色開始後に樹冠上部の果間を確認して本虫が複数頭認められる場合、効果の高い剤の中から収穫前日数に応じて選択し（表4）、樹冠上部を重点的に防除する。

成果の活用面・利用上の留意事項

本種の加害時期はカメムシ類の防除時期と重なるため、両種の同時防除が可能である。本種のみ防除には「アザミウマ類」登録を持つ剤を使う。最も効果の高かったテルスターフロアブルは、「アザミウマ類」への適用拡大準備中である（平成27年6月現在）。

具体的なデータ

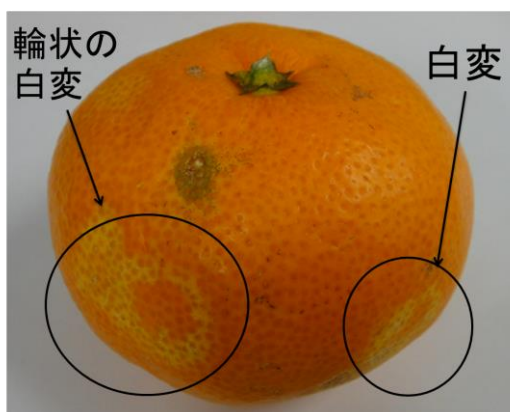


図1 ハナアザミウマの吸汁害

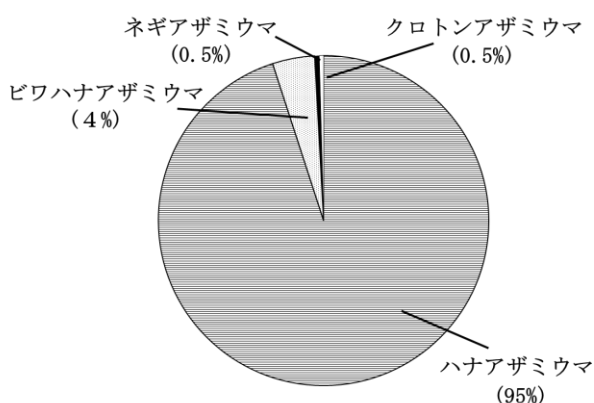


図2 捕獲されたアザミウマ類の種構成（平成23～25年：全460頭）

表2 県内産地のアザミウマ類発生ほ場率（平成23～25年）

調査地	平成23年	平成24年	平成25年
周防大島町	74	45	75
下関市	50	60	-
防府市	29	30	-
上関町	-	-	58
萩市	-	-	25

※数字は%

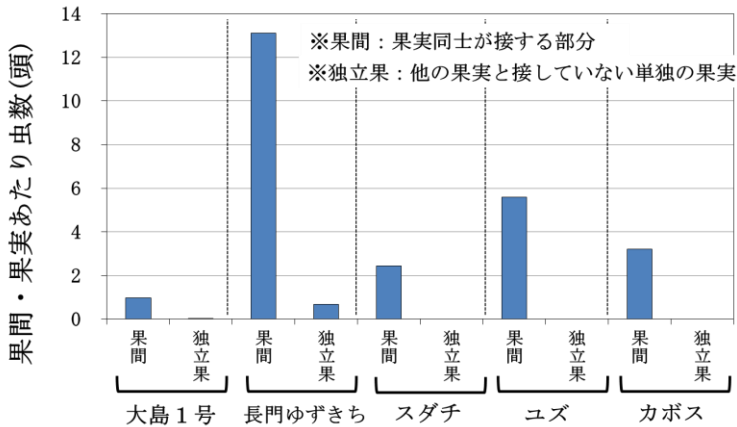


図3 アザミウマ類の発見位置(平成23年)



図4 温州ミカンの果間に潜む成虫

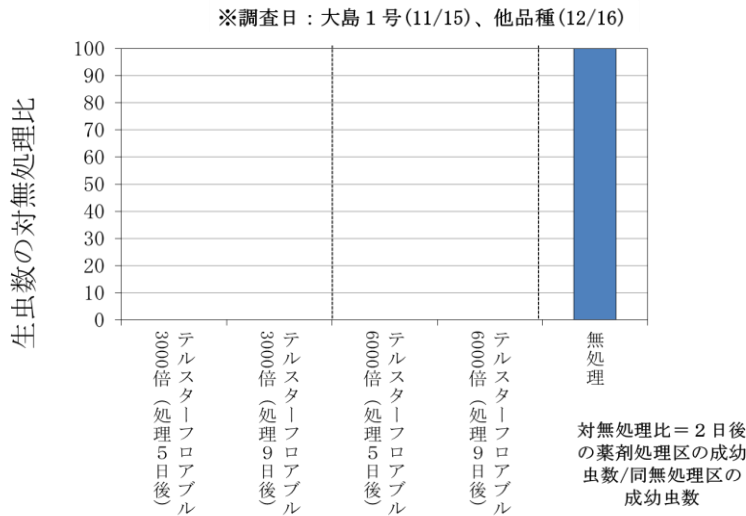


図5 薬剤処理果実への接種試験結果（平成26年）

※降雨時にはビニール袋掛けを実施 ※シクワシャー果実を使用

表3 マルチ敷設条件下の樹冠内部のアザミウマ類分布状況(平成25年)

マルチの有無	品種	調査日	部位	調査果間数	虫数	発見箇所数
あり	日南姫	10/10	樹冠上部	50	24	7
			樹冠下部	50	2	2
	上野早生	10/10	樹冠上部	50	12	9
			樹冠下部	50	0	0
	原口早生	10/22	樹冠上部	60	85	28
			樹冠下部	100	5	3
原口早生	10/10	樹冠上部	50	147	31	
		樹冠下部	50	30	16	
なし	原口早生	10/10	樹冠上部	48	28	13
			樹冠下部	50	13	9

※株元に白色の透湿性シート（商品名タイバック）を敷設

※「原口早生」の両区は隣接

表4 虫体浸漬法で高い効果が認められた薬剤(平成24～25年)とその登録状況

系統	薬剤名	死虫率100% 確認時間	登録の有無		使用時期
			カメムシ類	アザミウマ類	
有機リン	エルサン乳剤	12	○	○	収穫14日前まで
合成ピレスロイド	アグロスリン乳剤	12	○	×	収穫7日前まで
	ロディー乳剤	18	○	×	
	テルスター水和剤	18	○	×	収穫前日まで
	テルスターフロアブル	12	○	×	
カーバメート	MR. ジョーカー水和剤	18	○	×	収穫前日まで
	ラービンフロアブル	36	×	○	収穫14日前まで
ネオニコチノイド	オリオン水和剤40	18	×	○	収穫14日前まで
	ベストガード水溶剤	36	×	○	収穫7日前まで
	アドマイヤーフロアブル	36	○	○	収穫14日前まで
	モスピラン顆粒水溶剤	18	○	○	収穫14日前まで
	モスピランSL液剤	48	○	○	収穫14日前まで
	ダントツ水溶剤	18	○	○	収穫前日まで
	アクタラ顆粒水溶剤	72	○	○	収穫14日前まで
スピノシン	アルパリン顆粒水溶剤	72	○	×	収穫前日まで
	スピノエースフロアブル	18	×	○	収穫7日前まで
	ディアナWDG	12	×	○	収穫前日まで

※死虫率100%確認時間：虫体浸漬処理から、死虫率が100%に達したのを確認した調査までの時間

※登録の有無：カンキツの当該害虫に対する登録状況。○が登録あり、×が登録なし（平成27年6月30日現在）

研究年度	平成24年～26年
研究課題名	近年温州ミカンで問題となる秋期のハナアザミウマ類・小黑点症状の防除対策の確立
担 当	農業技術部 柑きつ振興センター 東浦祥光・村本和之

